

ギ・チドリなどの旅鳥も春や秋には本県を中継地に使っています。また、本県より南で越冬するマガン・ヒシクイなども、春と秋に一時滞りますし、夏に北海道で繁殖するノゴマ・シマセンニュウなども渡りの通過時に観察されます。このように、本県は重要な『渡り』のコースにあるので、多くの種類の鳥を観察することができるのです。

こうした、いくつかの要因によって本県では、多様な鳥が生息していると思われまます。

しかし、伐採による森林の減少、土地開発による湿原の変化、護岸工事による自然の海浜・海岸・河岸の減少、開発などによって生態系が変化してきています。それにともなって、貴重な鳥類の生存が脅かされているのも事実です。

鳥類の恵まれた環境がありながら、鳥の種類および生息数は減少の傾向にあります。その原因は詳しくわかっていません。

減少の原因が繁殖地にあるのか、越冬地にあるのか、渡りの途中にあるのか、あるいは別な原因なのか研究を急ぐ必要があります。いずれにしても、森林の伐採・土地の造成・湿原や草原の減少・河川や海岸の護岸などによる環境の変化が影響していることが予想されます。

今後、生態系の変化や鳥類の生息環境が悪化すればますます『青森県の希少な鳥類』の種類が増えることとなります。

青森県に生息し、繁殖したり、越冬したり、渡りの途中で休息する鳥をどのようにしたら保護できるのか、その対策を考えていく必要があります。

補足説明

・国際条約や協定の正式名

日米渡り鳥等保護条約…「渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその環境（1974年9月19日発効）の保護に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約」

日豪渡り鳥等保護協定…「渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその環境（1981年4月30日発効）の保護に関する日本国政府とオーストラリア政府との間の協定」

日中渡り鳥保護協定……「渡り鳥及びその生息環境の保護に関する日本国政府と中華人民共和国政府との間の協定」

日ソ渡り鳥等保護条約…「渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその生息（1988年12月20日発効）環境の保護に関する日本国政府とソビエト社会主義共和国連邦政府との間の条約」

カイツブリ目カイツブリ科
カンムリカイツブリ

青森県：B
 環境庁：絶滅のおそれのある地域個体群（青森県）



佐々木秀信撮影

全長56cm前後。夏羽では首が白く、黒い冠羽と先端が黒く赤褐色のほおひげが特徴です。

冬鳥として渡来しますが、少数は周年生息しています。

日本での繁殖地が初めて確認されたのは六ヶ所市の湖沼群です。このほかにむつ市の宇曾利山湖、鶴田町の廻堰大溜池などで繁殖しています。生息環境が汚染されないように保全する必要があります。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約の指定種です。

對馬

ミズナギドリ目ウミツバメ科
コシジロウミツバメ

青森県：A
 環境庁：該当なし



今兼四郎撮影

全長20cm前後。尾の切れ込みが深く、全体が黒褐色で、白い腰が特徴です。

大洋上に生息し、繁殖期には沿岸の島々や孤島などで繁殖します。北海道の大黒島が日本で唯一の繁殖地とされていました。その後、北海道沿岸での繁殖地が次々と発見されてきました。県内には夏鳥としてごく少数が渡来し、下北半島尻屋崎の近くにある弁天島だけで繁殖しています。

日ソ渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥等保護協定・日米渡り鳥等保護条約の指定種です。

對馬

コウノトリ目サギ科

サンカノゴイ



はく製（むつ市教育委員会所蔵）

小山みちる画

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

全長70cm前後。頭頂は黒く体は黄褐色。首に黒い縦の筋模様があります。くちばしも足も黄緑色で黄色の目が特徴です。

夏鳥としてごく少数が渡来します。ヨシ原・湿地の草原などに生息しますが、夜行性なので人目につきません。1993年7月に三沢市仏沼干拓地で確認されてから県内での観察報告がありません。その後、2000年5月に仏沼で鳴き声の録音に成功しました。数も少ない貴重な鳥です。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約の指定種です。

対馬

コウノトリ目サギ科

オオヨシゴイ



今兼四郎撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

全長40cm前後。背面は濃い栗色で、雄では下面に縦すじが1本、雌では背に白点が散在しているのが特徴です。

夏鳥としてごく少数が渡来します。ヨシ原・湿地などの草原に生息します。三沢市仏沼干拓地などで観察されています。

開発などによって生息環境が失われていくにつれて、急速に数が減少してしまいました。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約・日米渡り鳥等保護条約の指定種です。

対馬

コウノトリ目サギ科

ミゾゴイ



はく製 (光信公の館(鱒ヶ沢町)所蔵)

青森県：A

環境庁：準絶滅危惧

全長49cm前後。頭の上は赤褐色で全身は暗い赤褐色。下面にはくすんだ赤黄色と栗色の縦じまがあります。首から腹の中央にある黒い縦の模様が特徴です。

夏鳥としてごく少数が渡来します。数が少なく夜行性なので人目につきません。以前は尾上町の猿賀神社にも少数が繁殖していたのですが今はいません。最近では上北地方の小川原湖周辺の湿原と青森市三内で観察されただけです。

日本だけで繁殖する鳥で、日中渡り鳥等保護協定・日米渡り鳥等保護条約の指定種です。

対馬

コウノトリ目サギ科

クロサギ

青森県：B

環境庁：該当なし



今兼四郎撮影

全長63cm前後。くちばしは太くて長く、足は比較的に短い中型のサギ。黒色型と白色型とがあります。

ごく少数が周年生息しています。岩礁の多い海岸や入り江、湾などにいます。西海岸岩崎村の岩礁の多い海岸に生息し、繁殖もしています。1羽またはつがいでいて、魚類やカニ、エビなどを食べています。

岩礁の多い海岸や湾などを自然のままに残し保護する必要があります。

日米渡り鳥等保護条約の指定種です。

対馬

カモ目カモ科

シノリガモ

青森県：B

環境庁：絶滅のおそれのある地域個体群（東北地方以北）



今兼四郎撮影

全長43cm前後。雄は暗いあい色でわきが赤茶色、体に白いまだら模様があります。雌は黒褐色で、顔に3つの白い模様があるのが特徴です。

冬鳥として渡来します。一部は周年生息しています。1976年に西津軽郡赤石川でひな連れの雌を発見したのが日本での繁殖初確認になりました。おもにブナなどの森林を源流にしている溪流で繁殖しています。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約・日米渡り鳥等保護条約の指定種です。

対馬

タカ目タカ科

クマタカ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



宮川圭司撮影

全長72～80cm、翼開長^{よくかい}140～165cm。後頭は角張り冠羽状。飛ぶと翼は幅広く、後縁は^{かんろう}ふくらみ、翼の下面と尾には横斑があります。

豊かな森林がある地域に広く生息しますが見ることはまれです。白神山地およびその周辺に生息数が多い。ウサギ、キジ、ヤマドリ、ヘビなどを食べ大木に巣を作ります。

保護には森林の保全、えさ動物の生息環境保全が必要です。

昔殿様が鷹狩りに用いました。

小山

タカ目タカ科

イヌワシ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



小山信行撮影

全長81~89cm、翼開長^{ちよう}170~213cm。成鳥は全体が黒褐色。幼鳥や若鳥は翼に三角形の白斑と尾の白色が特徴です。日本全国で約400羽、県内には十数羽と数が少なく、国の天然記念物に指定されています。白神山地、岩木山、八甲田山系などに生息し、2000年白神山地で繁殖が確認されました。

崖の岩だなや大きな木で営巣し、ウサギ、ヤマドリ、ヘビなどを捕食します。

生息地が観光開発やスキー場建設で失われつつあります。 **小山**

タカ目タカ科

オジロワシ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



畠山高撮影

全長80~94cm、翼開長^{ちよう}180~230cm。飛んだ時の翼は四角で幅広く、成鳥の尾は白色でくちばしが黄色、若鳥は尾が褐色です。

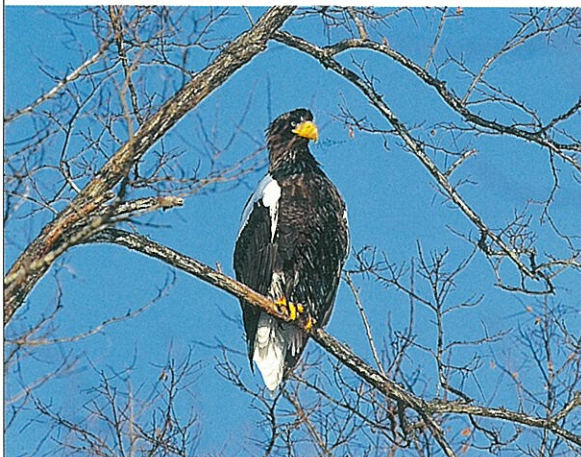
冬鳥で海岸や大きな湖沼・河川で少数が越冬しています。厳寒期はカモ類などが群れる限られた場所に生息し、上空を旋回したり氷上や樹上に休み、魚や弱ったカモ類を食べています。国の天然記念物で、日米渡り鳥等保護条約・日ソ渡り鳥等保護条約の指定種です。 **小山**

タカ目タカ科

オオワシ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



畠山高撮影

全長88～102cm、翼開長220～245cm。日本最大の海ワシ。尾は白色でくさび形、くちばしは黄色で大きく、成鳥は肩部が白色。

冬鳥で海岸や大きな湖沼で少数が見られます。小川原湖、十三湖など結氷した広い湖面に1羽、2羽と分散して休息し、魚や弱ったカモ類を食べます。

国の天然記念物で、日米渡り鳥等保護条約・日ソ渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定の指定種です。

小山

タカ目タカ科

オオタカ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



佐々木直撮影

全長50～57cm、翼開長105～130cm。ほぼハシブトガラス大で、翼が幅広く短く尾が長い。白い眉斑があり、胸から腹に成鳥は細い横縞、幼鳥は縦斑があります。

留鳥で人里の林で繁殖し、低山帯から市街地まで広い範囲に少数が生息しています。カルガモなどをえさにし、冬に町中や公園でカラスやドバトを捕食するものもいます。

日ソ渡り鳥等保護条約の指定種で、昔殿様が鷹狩りに用いました。

小山

タカ目タカ科

チュウヒ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



菊池弘保撮影

小山

全長48～58cm、^{よくかい}翼開長^{ちよう}113～137cm。トビに似るが翼をV字形にして飛ぶのが特徴です。

広大なヨシ原で繁殖し数が少ない種です。

日本海側では^{びようぶ}屏風山地域や岩木川下流部のヨシ原、太平洋側では小川原湖を中心とする湖沼群・湿地のヨシ原などで見られ、ネズミ、小鳥、カエル、昆虫などを食べています。

保護には広いヨシ原の保全が必要で、日ソ渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定の指定種です。

タカ目ハヤブサ科

ハヤブサ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



阿部誠一撮影

小山

全長38～51cm、^{よくかい}翼開長^{ちよう}84～120cm。翼の先が細くとがり、ほおのひげ状黒斑が特徴です。

留鳥で海岸の切り立った岩場で繁殖し、各種鳥類を捕食します。夏は岩崎村、小泊村、下北半島などの海岸で見られ、冬は市街地でドバトの群をねらう個体もあります。

海岸の繁殖地は観光地に近い場所があり、観光開発が繁殖を害する心配があります。

日米渡り鳥等保護条約・日ソ渡り鳥等保護条約の指定種です。

キジ目キジ科

ウズラ

青森県：B

環境庁：情報不足



はく製（むつ市教育委員会所蔵）

小山みちる画

対馬

全長14cm前後。丸い体で短い尾。雄は赤褐色ののだ。雌は2本の黒い帯がある白っぽいのが特徴です。

以前は、岩木山麓の草原や上北地方の牧野、水を落とした農業用溜め池などに普通に生息していました。しかし、農耕方法の変化や生息地の草原などが開発によって減少して、最近ではいちじるしく数が減ってしまいました。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約の指定種です。

ツル目クイナ科

クイナ

青森県：B

環境庁：該当なし



三戸貞夫撮影

対馬

全長29cm前後。上面は褐色で黒い模様があります。顔から胸は灰色で腹から尻には黒と白の横じまがあります。赤く長いくちばしが特徴です。

本県には夏鳥として渡来します。警戒心が強く夜行性なので人目につきにくい鳥です。水田近くの水辺や湿地のヨシ原などに生息します。ヨシ原や湿地が減少していきながら数が激減しました。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約の指定種です。

ツル目クイナ科

ヒクイナ

青森県：B
環境庁：該当なし

菊池弘保撮影

対馬

全長23cm前後。体の下面は赤味が強く、わき腹と尻には白いしま模様があります。足は赤。体全体が赤っぽいのが特徴です。

夏鳥として少数が渡来します。湖や沼のまわりのヨシ原や水田・湿地・川岸などの草原などに生息します。生息する場所の環境が変わっていくにたがって数が激減しました。今では、観察報告がたいへん少なくなりました。

日中渡り鳥保護協定の指定種です。

チドリ目チドリ科

イカルチドリ

青森県：B
環境庁：該当なし

畠山高撮影

対馬

全長21cm前後。頭には白と黒のまだら模様。体の下面は白。くちばしは比較的に長く、足は淡い黄色。胸の細い黒い帯の模様が特徴です。

夏鳥として少数が渡来し、一部は周年生息しています。川原の砂れき地や草地、湖や沼のまわりの砂地などに生息します。河川の改修や護岸工事のために、生息場所が激減してしまいました。

生息地で工事をする際には、事前に調査して、保護対策を考える必要があります。